

**令和 7 年度 在宅医療・介護連携推進事業
事業活動評価アンケート調査 結果報告【推進委員・研修関係者・専門職団体】**

I.目的

- ・現状の事業活動に対する関係者の満足度及び課題と感じている点、要望する新たな活動等を把握する。
- ・調査結果を今後の事業活動へ適切に反映し、事業の見直しや改善につなげる。
- ・各専門職団体、推進委員、実施主体者双方が事業活動への理解を深め、更なる連携推進を図る。

II.対象者

- ①6ブロック在宅医療・介護連携推進会議 参加者(委員・包括) 計77名
- ②多職種研修会 関係者(座長・講師・登壇・ファシリテーター) 計 26 名
- ③専門職団体 8か所
 - ・中部地区歯科医師会
 - ・中部地区薬剤師会
 - ・一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
 - ・公益社団法人 沖縄県看護協会
 - ・一般社団法人 沖縄県介護支援専門員協会
 - ・一般社団法人 沖縄県介護福祉士会
 - ・一般社団法人 沖縄県リハビリテーション専門職協会
 - ・公益社団法人 沖縄県理学療法士協会

III.回収率

①6ブロック推進委員 計 78 名へアンケート回答依頼 うち、74 名回答 回答率:約 95%
内訳

	沖縄市	うるま市	宜野湾市	広域 A	広域 B	広域 C
対象人数	20	21	12	8	8	9
回答数	20	21	12	8	5	8
回答率	100%	100%	100%	100%	62.5%	88.9%

②多職種研修会 関係者 計 26 名へアンケート回答依頼 うち、26 名回答 回答率:100%

③8団体へアンケート回答依頼 うち、7 団体(7名)回答 回答率:87.5%

回答者数 計 107名

IV. アンケート項目

共通項目

- ・中部地区医師会在宅ゆい丸センターの事業内容を知っているか。
- ・これまでに「医療・介護おたすけマップ」を活用したことはあるか。活用したことがない方はその理由。
- ・医療・介護おたすけマップに関して、改善や工夫が必要だと思う点はあるか。
- ・当センター相談窓口へ相談したことはあるか。ある方は相談した結果内容。ない方はその理由。
- ・エンディングノートを活用したことはあるか。
- ・ACP(人生会議)アニメーション動画や短編漫画を活用したことはあるか。
- ・今後、当センターが実施する地域住民向け普及啓発活動でどのような取り組みが必要だと思うか。
- ・当センターのホームページを見たことはあるか。見たことがある方は使いやすさはどうか。
- ・ホームページに掲載されていると良いと思う情報はあるか。
- ・マナーブックを活用したことはあるか。ある方は活用場面や方法、有益であった・改善が必要な情報はあ
るか。
- ・研修会の内容に関するご提案やご要望、その他運営に関して改善点はあるか。
- ・職場、団体などで実施されている活動(専門職同士で集まるもの・地域住民が集まるもの)の有無。
- ・在宅ゆい丸センターの活動についてご意見、ご提案等はあるか。

推進委員・研修関係者のみ

- ・貸出 DVD 研修を利用したことはあるか。活用したことがない方はその理由。
- ・職場、団体などで実施されている活動(専門職同士で集まるもの・地域住民が集まるもの)の有無。

推進委員のみ

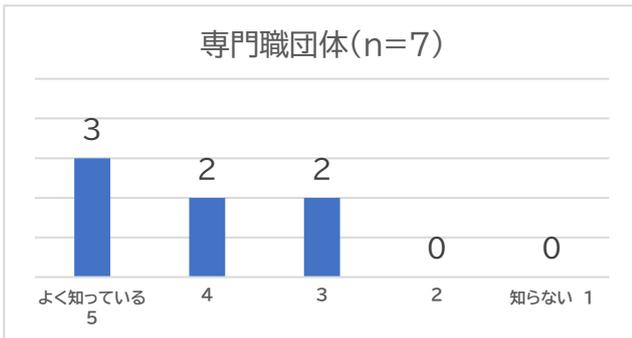
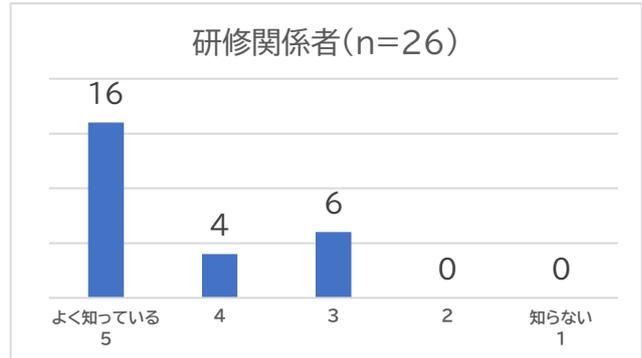
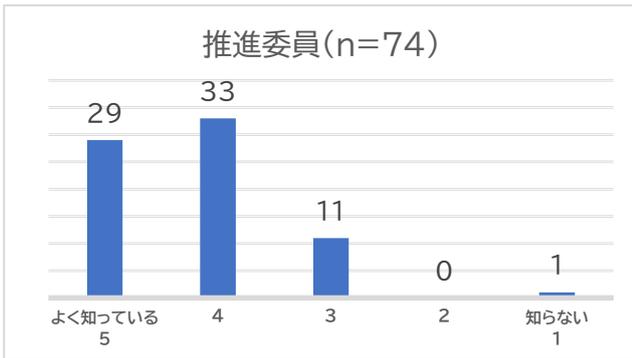
- ・委員として所属している推進会議は、課題抽出・共有ができていると思うか。その理由。
- ・委員として所属している推進会議は、地域課題の整理・対応策の検討ができていると思うか。その理由。
- ・推進会議で話し合われた地域課題・対応策について、各専門職団体・所属部署等に持ち帰り、内容につい
ての報告を行ったことがあるか。
- ・当センターが主催する医療・介護連携に関する研修会に参加したことはあるか。参加したことがない方は
その理由。

専門職団体のみ

- ・貴会会員が推進委員として参加していることを把握しているか。
- ・推進会議で話し合われた地域課題や対応策について、内容の報告を受けたことがあるか。

V. アンケート調査結果

●中部地区医師会在宅ゆい丸センターの事業内容をご存じですか。



平均値

↳ 推進委員 : 4.2

↳ 研修関係者 : 4.4

↳ 専門職団体 : 4.1

<結果・考察>

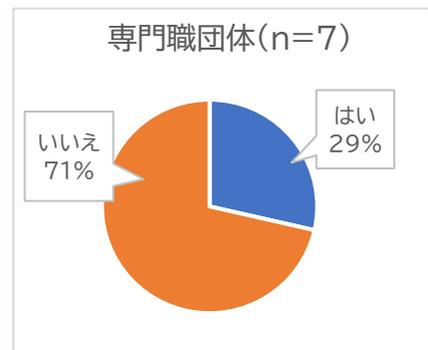
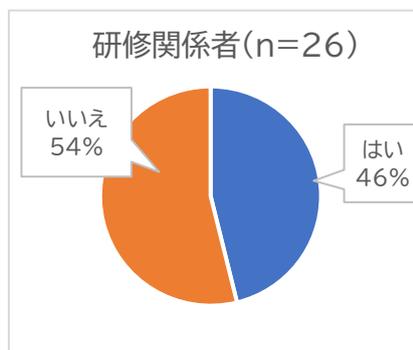
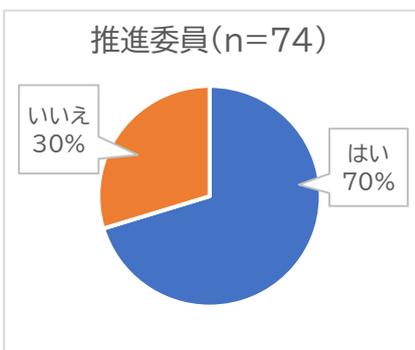
- ・推進委員、研修関係者、専門職団体のいずれも、当センターの事業内容把握の平均値は 4.0 以上であったことから、会議や研修会で関わりのある方は当センターの関心のある程度持っている事が分かった。
- ・3 または 1 と回答した方の内訳をみると、推進委員は任期が1～2年目の方、研修関係者は今年度初めて協力依頼を行った方が主であった。

<今後に向けて>

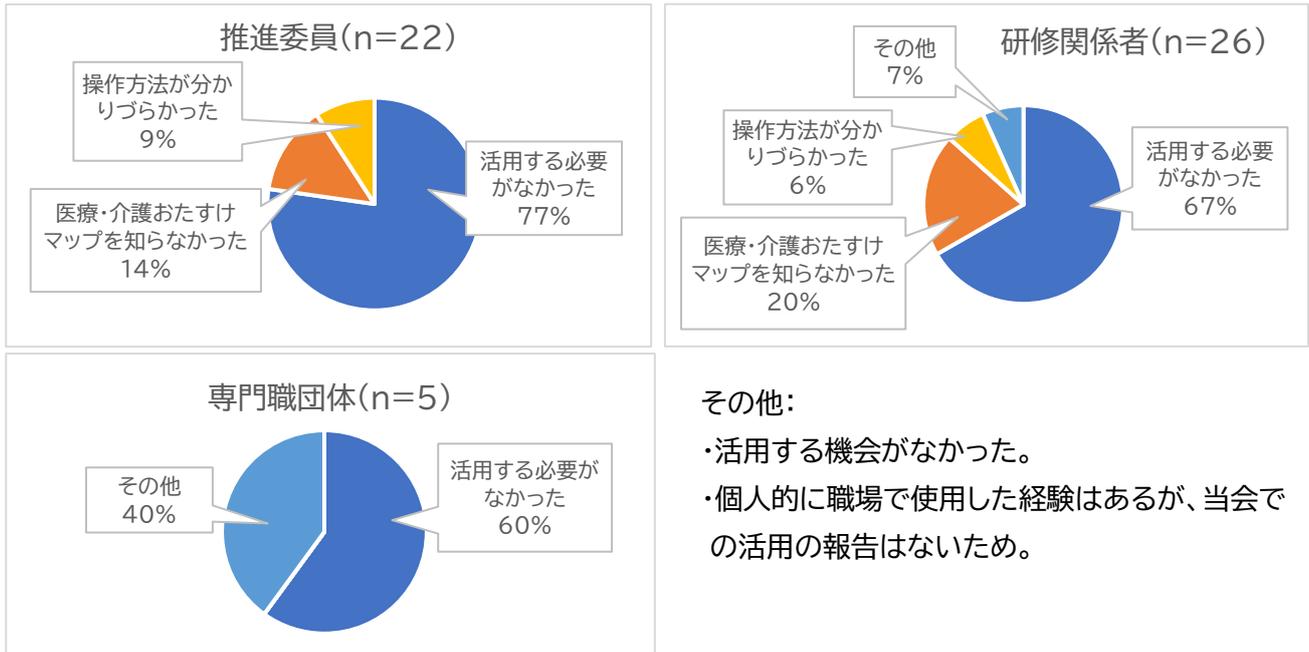
- ・委員任期が 1～2 年目の方などにも伝わりやすいよう、活動内容の報告等を心がける。
- ・当センターInstagram を中心に、活動内容の発信を継続する。また、他の発信方法の検討を行う。

●地域の医療・介護資源の把握、提供

これまでに「医療・介護おたすけマップ」を活用したことはありますか。



上記質問で「いいえ」と回答した方。活用したことがない理由を教えてください。



医療・介護おたすけマップに関して、改善や工夫が必要だと思う点があれば教えてください。(一部抜粋)

検索機能	1 ページで表示される件数が少ない。
	一覧表の表示(リスト化)、検索結果一覧を印刷できる機能があると助かります。
	名前検索機能が欲しいです
	詳細検索(かんたん検索ではなく、地域を選べる検索)でキーワード検索もできたらなおよい。
	使いたいサービスを選択しなければ検索結果が出ないのは、一般市民にはわかりづらいのでは? デイにするのか、GH、小多機にするのか悩んでいる人にはわかりづらいかもしれない
	サービス種別ではなく、「近くで」と検討されるご家族もいらっしゃるの、その辺りの検索の工夫があればよいかな
掲載情報	検索を画面の一番最初、市町村→検索したい職種→の方がわかりやすいと思います
	更新日があるとよりいいと思います。
	情報の更新がスムーズに行える体制づくりを検討してほしい。
	外来リハビリができる医療機関を探すのに時間を要しています。リハビリテーション科の標榜だけでなく実際にリハビリの提供を行っているかが分かれば助かります。加えて脳血管リハや運動リハ、難病リハなど、提供可能なリハビリの種類も分かれば尚助かります。
	各事業所の「自身が思う事業所の強み」などを記載してもらえると、何に力を入れているのかが見えると思う。
	事業所番号の記載
周知	身寄りがない、高齢者が増えていく中、キーパーソンが2人以上必要という施設も多く、施設探しに時間がかかる。身寄りがいなくても受け入れ、看取りができる施設をお助けマップに掲載してほしい
	包括や病院の HP などにどんどんリンクのバナー設置があればいいなと思いました。
	対象者は、専門職? 一般市民? 一般の方が見た時、どのような時にマップを利用したらよいか、わかりやすい解説やイラストがあると良いのではないかと。いまだに「地域包括支援センターって何?」という方が多い。
その他	各市町村の広報や、広報 LINE に掲載しては?
	訪問時等、外出先からのアクセスをする事も有るかと思います。スマホからの閲覧でも見易いか、気になりました。

アプリと連動していたら利用しやすいかなと思います。

<結果・考察>

- ・医療・介護おたすけマップの活用率について、推進委員の割合が一番高く、次いで研修関係者であった。また、活用したことのない理由について、「知らなかった」の割合は研修関係者が一番高く、次いで推進委員であった。当センター活動内容の報告頻度が影響していると考えられる。
- ・「知らなかった」と回答した方は計6名であり、全体の107名の約6%であったことから、全体的な認知度は高いことが分かった。また、その6名については、初めて当事業にご協力いただいた方だった。
- ・改善・工夫の設問では、検索機能、掲載情報、周知方法などに関して、多くの意見・提案が挙げられたが、中にはすでに機能として存在する内容も含まれており、使用方法や機能内容の発信不足が示唆された。

<今後に向けて>

- ・定期的な情報更新作業の継続に加え、行政担当者および事業関係者に、新規・廃止等の事業所の情報提供の協力依頼の強化。
- ・医療・介護おたすけマップの周知ならびに使用方法や機能内容の発信強化。

●在宅医療・介護連携推進会議の開催

<推進委員のみの設問>

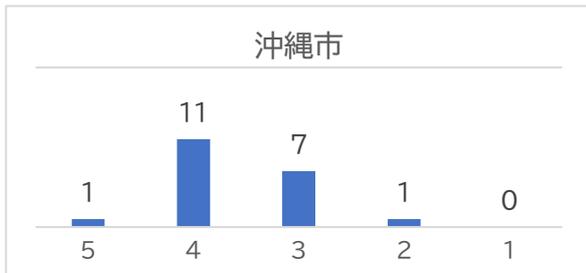
回答者様が委員として所属している推進会議では、課題抽出・共有ができていますか。またその理由も教えてください。



平均値 : 4.1

※同一意見はまとめています。

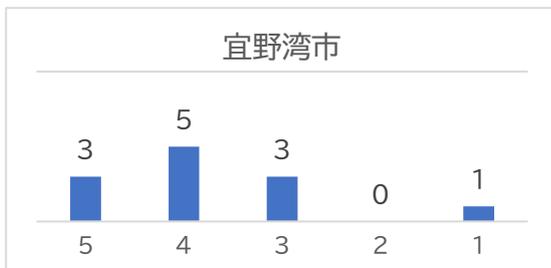
5	各施設・各職種から、課題についての具体的な対策、意見が毎回しっかり挙がっており、その意見を推進会議事務局が取りまとめてくれていると感じる。
	リアルな実情を知ることができる。
	会議の都度、事前に検討内容及び資料の通知、会議後は議事録の通知がある。
	出欠に関係なく、議事録や経緯のわかる資料を作成されており、振り返りができるから。
	適切な救急搬送等、身近で各関係者それぞれ関連のある課題を取り上げることで、自分の職業以外での視点も知れて勉強になったため。
4	毎回しっかりと継続して、議題が上がっているし参加者がきちんと意見を述べている。
	医療・介護側から、改題すべき点など、自分も会議に参加してわかることも多かった。まさに、多くの職種が連携し改善していく会議ができていると感じています。
	ある程度テーマを絞って掘り下げているので良いと感じます
	他職種が集まっているので多角的な視点での話し合いは有意義だと思う
3	「適切な救急要請につなげる」は、救急車が本当に必要な人に対してすぐに対応できるようにするためには大事なテーマだと思いました。
	市町村の規模が大きいため、課題抽出が難しい 話し合いはおこなわれているが結果どう役立ってるのか、役立ったのかがわからない。



平均値 : 3.6

※同一意見はまとめています。

5	欠席しても会議内容を勤め先まで口頭にてお伝え下さった。
4	業種別にグループワークとなり、課題の共有が増えたと思います。
	今年度は課題が幾つかある中で具体的な内容で上がってきていたと思う
	前年度の課題は、共有が難しかったが、今年度は自分事に落とし込んで考えやすいため共有しやすいと感じた。
	しっかり連絡をコーディネーターが確認したり進めてくれているので、共有できていると思います。
	委員の声が発信しやすい工夫がなされている。
3	それぞれの専門性から話ができていると思う。
	今年度より色々と変更があり、委員が戸惑っているところもあると感じている。
	各施設や事業所の課題や取り組みは出来ても、沖縄市としての抽出や共有には繋がっていないのではないか。
	課題を検討することで少しずつ連携が行いやすくなっていますが、課題は解決までは話合えていないと思う。
	独創的な考えやアイデアが出にくいように思います。各関係者の専門領域から外れる意見になると話が進まない傾向にあると思います。
2	毎回、何について話しているのかよくわからない。システムの話なのか？実際の在宅での困りごとがわからない。
2	会議の場以外で、共通課題として話題にあがっており抽出共有はされていると感じる



平均値 : 3.8

※同一意見はまとめています。

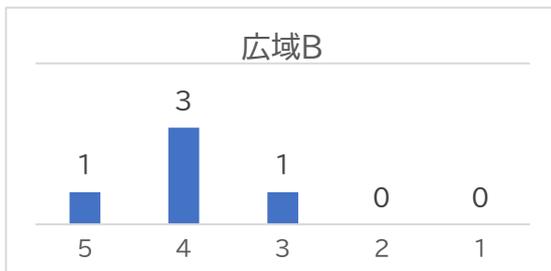
5	医療介護を問わず共通した課題であり各視点から多く意見が挙がったと認識しています。
4	各担当と情報共有して話しあえる体制になっている。
	テーマを話し合いで決め、それに沿って進められている。
	しっかり議論し、結果改善している点もある為。(施設入居の生活保護者への薬剤師の居宅管理が可能になった点)
	各現場の生の声がたくさん聴ける。
	参加1年目であり、前年の引き継ぎ課題の取り組みもあったことから、新規課題についてはもう少し掘り下げたかったと思います。
3	今年度は課題抽出出来たかと思われたが、研修への参加者が思ったよりも少なく、委員と地域で勤務している医療・介護職の方とで興味・関心がある事象が異なっているのかも感じた。
	R7年度取り組みの災害対策については、今までの入退院や。救急搬送等の医療連携というよりは、危機管理室との連携を深めるべきではなかったか？公助の内容が理解できてこそ、自助・共助だという考えは変わりません。
1	推進会議の本来議題にすべき内容から外れている内容を話しあっているから。



平均値 : 4.3

※同一意見はまとめています。

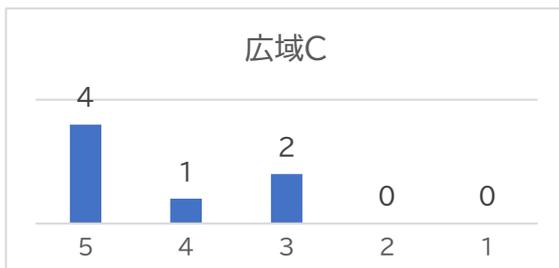
5	行政職と事業所の双方から意見が出やすい会議進行をさせていただいているので地域課題は皆で把握できているものと思われる。
	地域の困り感や悩みを抽出し、解決に向けて情報共有、顔の見える関係性を築くための名刺交換会を開催している
4	地域の課題を具体的に提案いただいております、会議内で話し合っているため共有もできている。
	会議での各委員からの意見交換が活発に行われている。 資源が少ない事や慢性的な人手不足等課題は継続的にあると思いますし十分理解していると思います。



平均値 : 4.0

※同一意見はまとめています。

5	多職種がそれぞれの立場、視点から意見を述べていることができている。またその意見に対して、他の職種から意見を加えてブラッシュアップができている。
4	関係者の意見が多く共有され、それぞれの事業所の課題も抽出できていると思う
	課題抽出は行っているが、私自身も含め委員自らの実行に乏しい。
3	医療機関からの視点では、共有できていると思っていますが、在宅で支援されている方々から見るともっと課題はあるのかなと



平均値 : 4.3

※同一意見はまとめています。

5	推進メンバー各々しっかり発言され良い感じで議論できていると感じます
	建設的な会議で課題抽出が展開できていると感じる
	所属させていただいている2年間だけでも顔の見える、思いやれる関係性について重要さを認識できて、関係性の構築にもなっていると感じているため
4	交流会の開催が継続できたこと
3	テーマが漠然としていることが多い印象を受けます。 いつ、だれにとって、どのような抽象度での課題をどのようなレベルまで解決する目的で話し合っているのか、前提が共有されていないため、議論が深められないと感じています。

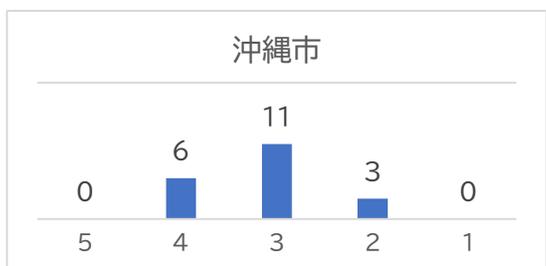
回答者様が委員として所属している推進会議では、地域課題の整理・対応策の検討がされていると思いますか。またその理由も教えてください。



平均値 : 3.6

※同一意見はまとめています。

5	それまでの会議を振り返り資料で確認しながらしっかり検討しているのでは、と思います。
4	地域の課題に関しては、やはり地域住民とともに考えて対策に取り組む必要を感じます。現状課題を知っている委員だけではなく、自治会・公民館の役職員も同席してもらい、一緒に解決に向けて取り組みしていく必要性を感じます。
	検討はされていると思います。しかし、検討課題を改善できるのかという点ではまだまだ、時間がかかる印象です。
	年数回の会議開催ですが、会議前には整理し伝えて下さるので、検討に入りやすいです。しかし、会議の中でいろいろな意見が飛び交い、この課題のゴールが見えなくなる時があります。
	毎回、課題を挙げて解決に向けて話し合うというスタイルなので趣旨がぶれなくて良いと思う。ゆい丸の方がまとめてくれたり、各関係者に話を振ってくれたりしているため。自分が積極的に手を挙げられない時があるので、最近のグループワークでは自分の意見を伝えることもできて良かった。
3	それぞれの立場で意見を述べているが、お互い尊重・理解・共有すると尚良いと感じた。
	課題に関しての共有は委員のなかではできているが、解決に向かっているか？と疑問視する場面もあります。行政や民間レベルでの話し合いで解決の糸口があるのか正直に医療従事者と介護従事者は考えにどうしても開きがあるように思います。
	テーマ自体はよいと思いますが、ポスターづくりに関しては、「救急要請をポスターの内容を参考に症状で判断する」ことに関しての検討時間が多く取られていましたが、ポスターを適切な救急要請の判断材料にしてよいのかについては正直疑問が残ります。症状だけで緊急性の可否を判断できない場面も多いと思うからです。ポスター作成で、#7119に関しては周知できると地域の人々が救急要請を判断するうえでの手助けにできると思いました。そのため今後は、課題達成に向けて周知方法はしっかりと検討していきたいと思いました。
	今年度の途中からは、医療側、介護側、行政側に分けて話し合いをしたことで、互いに求められていることに関して理解できたのですごくよかったです。
	会議の頻度が空くので整理、対応策の検討に時間がかかるが、仕方がないとも思う

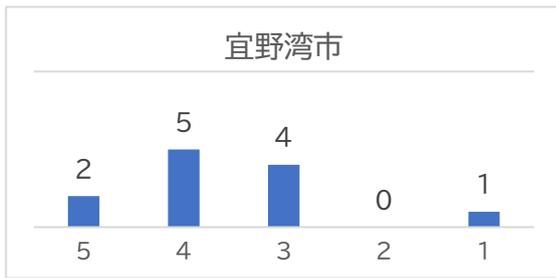


平均値 : 3.2

※同一意見はまとめています。

4	実績報告により、課題の抽出にとどまらず、実績をもとに検討することで、前に進んでいると思います。
	色々な職種の方と似たような対応策事にグループ分けされているので、検討しやすいと感じる地域の特性に合わせて対策を練っていることが分かります。
3	地域課題は多岐にわたるため、課題の整理に時間がかかっている。
	課題を絞るか、類似した課題を持つ事業所でまとめるとスムーズかと思いました

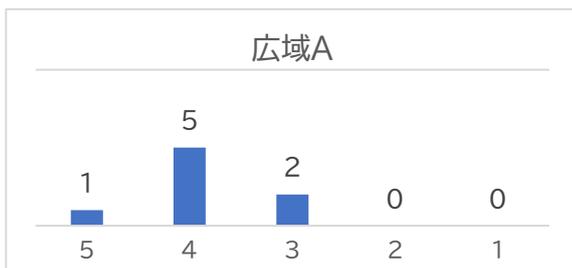
	検討はできていますが、出し合った意見からどんな方向に向かって企画するかまでは決まっていない。 一事業としてできることをやっているが、大きな結果がでない。もっと包括などいろいろ連携しないと課題は解決しないと思います
	具体的な動きにつながっているかははっきりしない。
2	手探りの状況かと思います。課題抽出・共有は出来ていたとしても、なかなかそこから前に進むのは現状の委員会の頻度や本来の業務を考えた時には正直厳しいのかと。課題抽出・共有のみであれば、十分出来ているとの判断でいいのかと。 課題は抽出しているが、実践レベルでの解決や整理が困難かと感じた。 職種によって介入できる方法や共有が難しい。年4回で整理、解決出来る内容と方法の検討、もしくは数年計画、場面別など実践できるレベルが望ましいかと思う。



平均値 : 3.6

※同一意見はまとめています。

5	議題に上がった課題に対する話し合いは、スムーズに実施されていたと思います。 勉強会の企画を通して一定の課題に対して意見交換が行い、地域やサービス種別で抱える課題や対応について確認ができた
4	推進会議で振り返りや今後について話し合えている。 進捗に手間取っている課題も含めるが、それも認識して協力して議論出来ている 地域に関わる事業所が関わり話し合いが出来ている。 課題の整理・対応はいろいろ複雑であるから
3	地域課題が多岐にわたるためどこまで整理できているのか評価が難しいところ。 推進会議の何が意見として採用されて、その成果物を目指すことになったのかという、決定プロセスがわかりづらい。 危機管理室との情報共有は大きな一歩になったのでは？



平均値 : 3.9

※同一意見はまとめています。

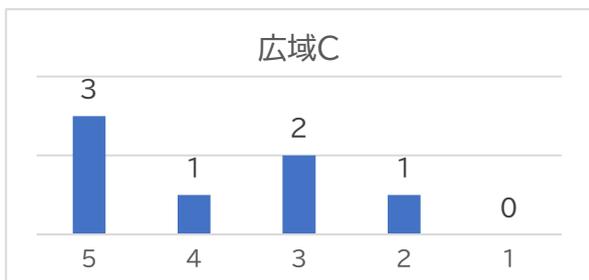
5	会議では活発な意見交換が行われ、検討できている
4	それぞれの委員が各専門職の立場から意見を述べることで課題整理と対応策の検討はしっかり行えていると思う。 検討はしてもマンパワー不足等、対応が困難な問題もあると、思われる。
3	色々な課題が出ており、全部に対応できているか自身が無い 対応策の検討については、様々な取り組みがされていると思いますが、効果や評価が得られるまでにはまだ時間がかかると思います。



平均値 : 4.0

※同一意見はまとめています。

4	整理はできてきていると思うが、対応策までは不足していると思う。
	各担当それぞれの業務で対応方法が異なるが、それを1人ではなく、みんなで解決できるようにそれぞれが意見を述べる会議になっている。
	議論自体は活発である。
	ACPに関して地域住民がどのようにすると興味を持っていただけるか様々な立場から検討されているように感じます



平均値 : 3.9

※同一意見はまとめています。

5	解決は難しいかもしれませんが、対策し続けることが答えだと思っているのでその体制や会議体としての意識統一ができていていると感じます。
	会議でしっかり協議がされていると思う。
	具体的な対策が検討されており、今後はアクションプランの具体化が求められる
4	各々がしっかり発言し課題について検討しているが開催期間があいてしまうため。もっと沢山検討したいなと思ってしまいますがメンバーでの議論はできていると思います
3	全容が大きいので判断しがたい
2	地域課題までは整理できていないように感じます。

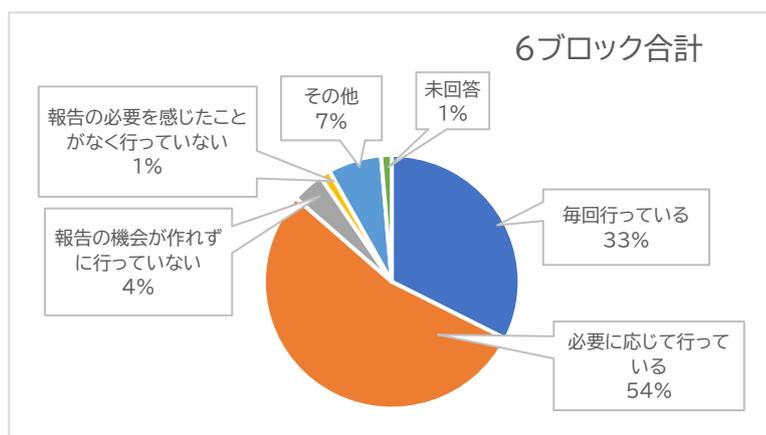
<結果・考察>

- ・「課題の抽出・共有」は、沖縄市が 3.6 と一番低く、広域 A・C が 4.3 と一番高かった。また、「整理・対応策の検討」は、沖縄市が 3.2 と一番低く、広域 B が 4.0 と一番高かった。
- ・各ブロックの「課題の抽出・共有」→「整理・対応策の検討」のポイント差は、うるま市 0.5、沖縄市 0.4、宜野湾市 0.2、広域 A 0.4、広域 B 0、広域 C 0.4 であり、大きな差はなかった。
- ・ブロックごとに協議テーマや会議計画が異なることが、5段階評価の平均値に差が生まれた一つの要因であると考えられる。

<今後に向けて>

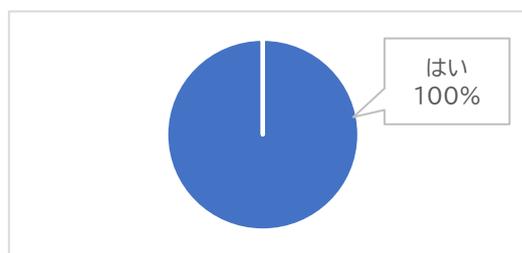
- ・各行政担当者と、推進会議のあり方、目的、推進委員の役割について協議し明確化する。
- ・各ブロック委員からいただいた回答内容を参考にしながら、行政担当者ととも次年度の会議計画を組み立てる。

推進会議で話し合われた地域課題・対応策について、各専門職団体・所属部署等に持ち帰り、内容についての報告を行ったことがありますか。

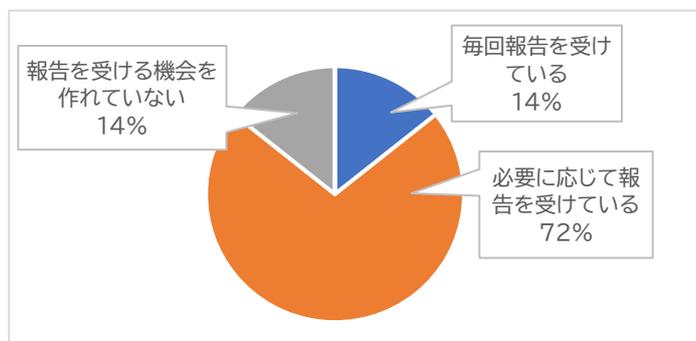


<専門職団体のみ設問>

貴会会員が推進委員としてご参加いただいている事は把握されていますか。



推進会議で話し合われた地域課題や対応策について、内容の報告を受けたことがありますか。



<結果・考察>

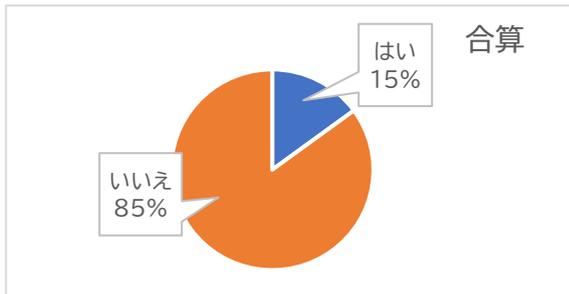
- ・推進会議内容を各専門職団体・所属部署等に持ち帰り報告を「毎回行っている」「必要に応じて行っている」と回答した方は、6ブロック合計で87%であり、大多数が実施していることが分かった。
- ・専門職団体においては、86%が会員から推進会議内容の報告を「毎回受けている」「必要に応じて受けている」と回答し、推進委員からの報告率との相違はなかった。

<今後に向けて>

- ・委員依頼の際に、本人や専門職団体・所属部署(機関)へ、当事業や推進会議の意義目的についての説明を継続する。
- ・持ち帰り、報告してもらいたい会議内容の明確化を継続する。

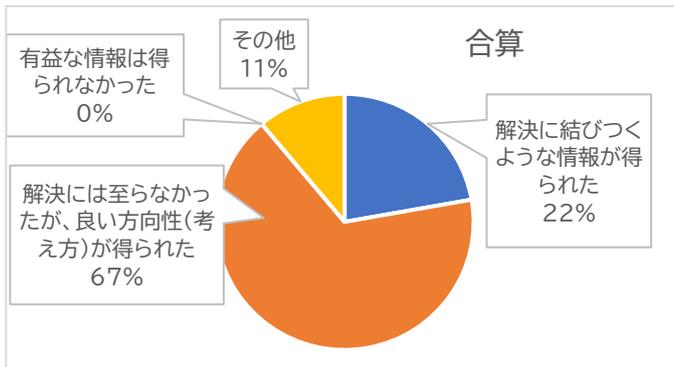
●相談支援

当センター相談窓口へ相談したことはありますか。



※推進委員・研修関係者・専門職団体の偏りなし

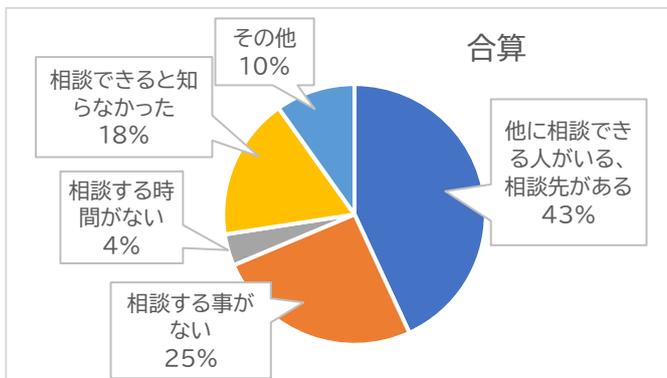
上記設問で「はい」と答えた方にお伺いします。相談した際に有益な情報が得られましたか。



その他

・ホームページを見てくださいと言われる。

上記設問で「いいえ」と答えた方にお伺いします。相談したことがない理由を教えてください。



その他

・これまでは他機関へ相談して解決できたが、必要に応じて今後の利用があると思われる。
・どんな相談ができるのか分からず躊躇する。

<結果・考察>

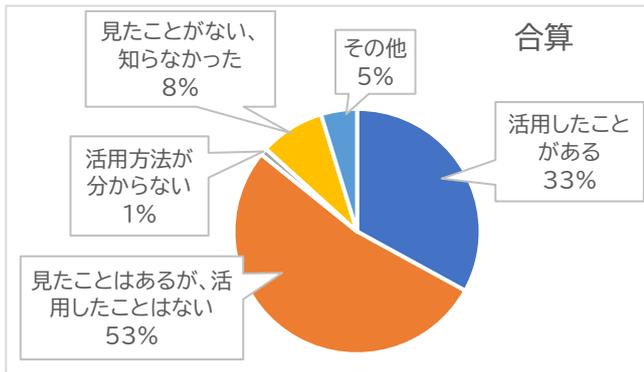
- ・相談した事があると回答した方は 15%(合算)と少なかったが、相談した際は 89%が「解決に結びつくような情報が得られた」「解決には至らなかったが、良い方向性(考え方)が得られた」と回答し、解決の一助となったことが分かった。
- ・「相談できると知らなかった」と回答した方は、大多数が本事業に関わって1~2年目であった。
- ・「その他」の回答理由の多くは、「ほかに相談できる人がいる、相談先がある」「相談する事がない」に該当する内容であった。

<今後に向けて>

- ・相談窓口の周知強化および相談できる内容の発信強化。
- ・引き続き、推進会議にて相談内容及び対応内容を共有する。

●地域住民向け普及啓発活動

当センターで平成 30 年度に制作したエンディングノートを活用したことはありますか。

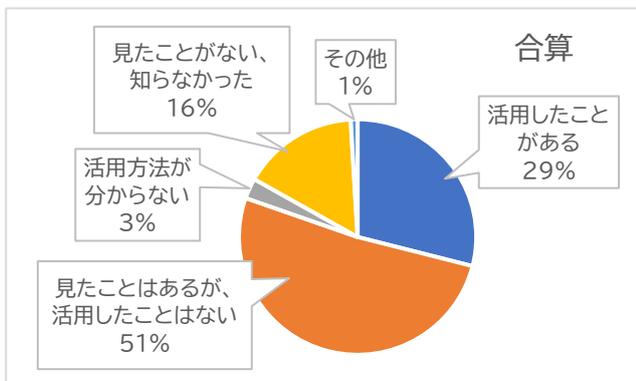


※推進委員・研修関係者・専門職団体の偏りなし

その他

- ・法人のものがあそちらを優先している。
- ・あるのはわかるが見たことがない。
- ・個人的に活用したことはあるが、会員が活用したという情報や報告はない。

当センターで令和 2 年度に制作した ACP(人生会議)アニメーション動画や短編漫画を活用したことはありますか。



「活用した事がある」内訳

- ・推進委員：31%
- ・研修関係者：35%
- ・専門職団体：0%

今後、当センターが実施する地域住民向け普及啓発活動で、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(一部抜粋)

内容	在宅医療の種類や利用の仕方。どのようなサービスが受けられるか。
	実際あった成功事例、好事例をどんどん伝えるようにしてほしい。ACPIに関しても何となく良いことだと理解してはいてもなかなか実感が湧かないのが本音。イメージするためにも成功体験例を知ることは大事だと思う。
	身寄りのない方の支援体制構築に向けた地域住民が取り組める事など？
	高齢者の制度について(おむつ助成や高齢者の日用品給付事業など)知らないと話されるご家族の方がいる。地域によって違う事も多いと思うが、制度についての勉強会はあったか？
対象	将来の医療介護分野を担っていく学生向けの普及啓発活動などは必要だと思う。
	介護に無縁な若者や、関心の薄い若い世帯にどう普及啓発を行うか。
	集まりにこないような意識が低い方への周知が必要。
	介護を行っている世代だけでなくこれからの世代も巻き込んで何かできればいいなと思う。
	お年寄りだけでなく、子供も一緒に参加できる内容があると普及啓発につながると思う。
方法	良い情報が沢山あるので公民館や自治会での情報提供出来る場を設ける。
	もっと行政を巻き込み小規模での開催を繰り返し行う。
	介護予防、認知症、特定検診などの行政事業のイベントにて ACP をセットで普及。
	現状行っている啓発活動を、マイクロ活動(公民館や事業所など)で行う。その時に、その地区の行政や委員の方々と連携し対応する。
	高齢者世帯が多い地域へポスティング
	AIDMA 理論を用いた普及啓発。

	沖縄タレントを起用した CM。沖縄県介護支援専門員協会など各団体との連携強化。
	医療、介護事業所を巻き込んで地域住民との交流の場など
	県民がよく聞いているハッピーアイランド等認知度の高い番組での宣伝
	劇団さんのような笑いも含めながらみんなで学べるのがとても住民向けに分かりやすい。
	国保がんじゅうタイムなどで幅広い層に知っていただく
その他	現在、どれくらい普及しているか確認することは常々行なった方が良いと思う。

※「現状の取り組みの継続、強化」以外で、設問に沿った回答を抽出。

<結果・考察>

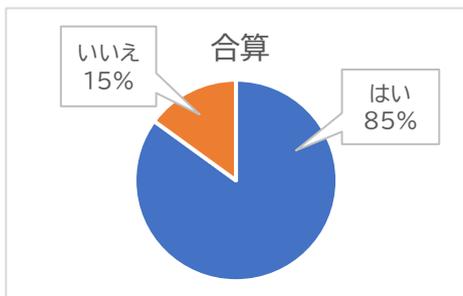
- ・前年度同様、エンディングノートに対して「活用方法が分からない」「見た事がない、知らなかった」と回答した方が約 10%、ACP アニメーション動画が約 20%で、数値の変動がなく浸透率が上がっていないことが分かった。
- ・地域住民への今後の普及啓発活動の意見・提案として、現行の活動の継続をはじめ、前年度と比較して普及啓発の対象や方法に関する提案が多く挙がり、高齢者だけでなく若い世代への普及啓発、行政との柔軟な対応が求められていることが分かった。

<今後に向けて>

- ・各種普及啓発ツールの周知強化、普及啓発活動の継続。
- ・発信する情報および内容・方法の効果的な手段について、他事業との連携が可能かなど行政担当者と検討する。

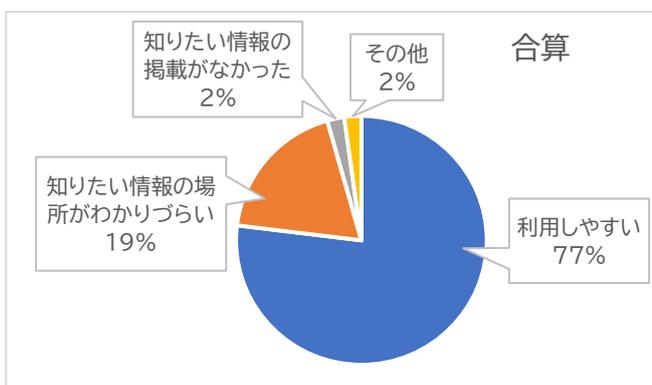
●医療・介護関係者の情報共有支援

当センターのホームページをご覧になったことはありますか。



※推進委員・研修関係者・専門職団体の偏りなし

上記設問で「はい」と答えた方。当センターのホームページ使いやすさはいかがですか。



※推進委員・研修関係者・専門職団体の偏りなし

その他

- ・研修が探しにくい

ホームページに掲載されていると良いと思う情報はありますか？(一部抜粋)

各病院の空き情報など。難しいと思いますが。
他団体の情報をもっと充実していれば。
65歳前後の介護保険へ移行する方たちの障害、介護サービス連携情報
最新の研修情報や年間研修計画
職員紹介ページ
各イベントなども掲載してはどうでしょうか？例えばうるま市健康についてのイベントとか
公式ライン、研修会お知らせメール機能などあれば尚いいと感じる
トップページにお知らせや研修情報を直接載せる、トップページからすぐ見たい情報が可視化できて
介護分野の人が医療の情報(病気や治療方法、用語等)を知る為の辞典みたいなもの。他府県でそういうものがあつたので便利だった。
月の救急搬送の件数
ハザードマップへのリンク(避難場所など)
「どんな時に利用したらよいか」がわかる Q&A の掲載はどうか？
インスタの内容が、ホームページ内のブログ等に載せられると、高齢者層にも PR になるのでは。
ACP とは、等。身寄りがない方への後見人の制度に関することや、支援方法関係の一介になるような情報。
各地域の相談窓口が掲載してみるのも良いかと思ひます。

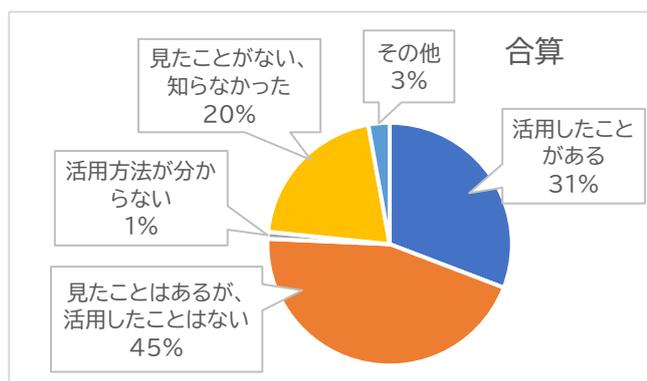
<結果・考察>

・回答者全体の 85% が当センターホームページを閲覧したことがあり、うち 77% が「利用しやすい」と回答した。満足感は概ね得られていると考えられるが、「知りたい情報の場所が分かりづらい」と回答した方が 19% いたこと、またこれまでもレイアウト等に関する意見をいただいていることから、利用しにくさに関する意見も一定数あることが分かった。

<今後に向けて>

・今回いただいた掲載情報に関する意見も参考に、次年度予定しているリニューアル作業を実施する。

入退院連携マナーブックを活用したことはありますか。



「活用したことがある」内訳

- ・推進委員 : 31%
- ・研修関係者 : 35%
- ・専門職団体 : 14%

その他

- ・今の仕事では必要性がなく、未閲覧。
- ・事業所ポータルサイトに掲載している。

上記設問で「活用したことがある」と答えた方。活用した場面や方法を教えてください。(一部抜粋)

業務での情報収集や情報提供のため
各病院の入退院時の情報提供時にどこに連絡すればいいか確認出来た。
法定研修で実務研修時に研修生に活用しています。
ケアマネジャーの業務の勉強はしているが地域の連携方法はあまり知らないので分かりやすいと思う。
特に病院の機能とかはあまり知らない。

新人への指導・オリエンテーション時に活用。多職種連携の際に医療連携のフローとして共有。
法人内・事業所内の研修会にて活用。部署内にて共有。
以前の職場にて、後輩の指導や実際に入院の対象になるか等を調べた。
日頃から内容を確認しています。利用者が入院するときの病院連携窓口一覧を参考にしました。
看護学生への実習、病院やクリニックの住所検索
県の事業で参考にさせていただきました。病院勤務中に、在宅関係職員と共有しました。
転院先を患者・家族へ説明する際
今後、病棟の退院支援リンクナースに配布予定
カンファレンスで共有すべき内容や進め方。またケアマネが取れる算定など確認した。
Dr への連絡調整、依頼等での調整方法。

上記設問で「活用したことがある」と答えた方。有益であった／改善が必要なページや掲載情報を教えてください。(一部抜粋)

有益なページや掲載情報	9、10 ページ(病棟機能の説明)
	各地域の病院の医療連携室 一覧
	①病棟機能の考え方 …利用者さんの説明に使用します(P9～15)
	②退院前カンファレンスシート …内容を覚えるようにしています(P20)
	③中部地区圏域 病院連携窓口一覧 …確認するときに役立ちます。一覧になっているので見やすいです(P25～33)
改善が必要なページや掲載情報	④病院から住み慣れた暮らしの場へ …入退院支援の工程表は新人ケアマネの指導や教育には役立ちます。
	P16 ,17 医療介護連携にかかる主な介護報酬・診療報酬加算は、説明に便利だった病院、介護施設の説明。退院前カンファレンスの内容。
	5～7 ページ(病院・ケアマネの動き、地域の医療と住宅サービス)
	医療側視点の内容なので、介護側視点もあると良い
	①医療介護連携にかかる主な介護報酬・診療報酬加算 …年度により変更が多いし報酬では動かない。(P16～P17 訂正が必要)
改善が必要なページや掲載情報	②地域包括支援センター一覧 …やむを得ないことですが年度により変更がある(P34 訂正が必要)
	ご本人・ご家族へのお願いの部分で、「入院中に困っている事、相談したい事があれば連携室へ相談して」と一文あってもよいではないかと思えます。
	古い情報等
	病院機能の説明ページ
	病院の連絡先や窓口の更新は必要か。

<結果・考察>

・入退院連携に主に関わる職種、そうでない職種がいることもあり、「活用したことがある」と回答した方は平均 31%に留まったが、業務での情報収集、新人研修など、様々な場面で活用していただいていることが分かった。

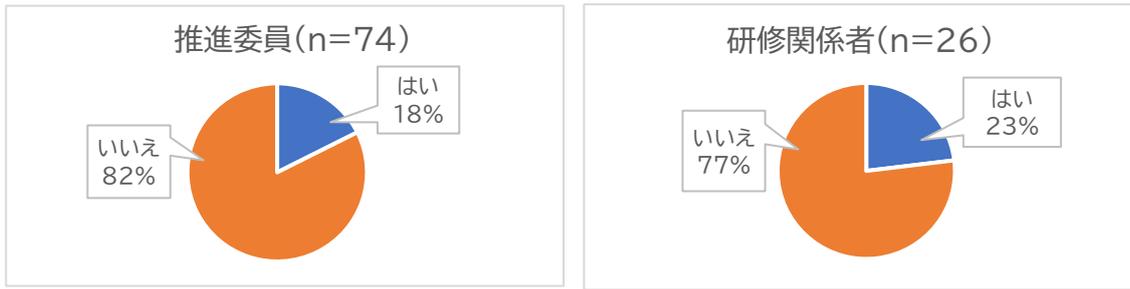
<今後に向けて>

- ・次年度予定しているマナーブック修正作業にて、古い情報は確実に修正。その他、大幅な改定はできないが、有益なページ・改善が必要なページの意見を参考に、修正等を行えるか検討する。
- ・引き続きマナーブックの周知を行う(2年ごとに情報更新されることも合わせて伝える)。

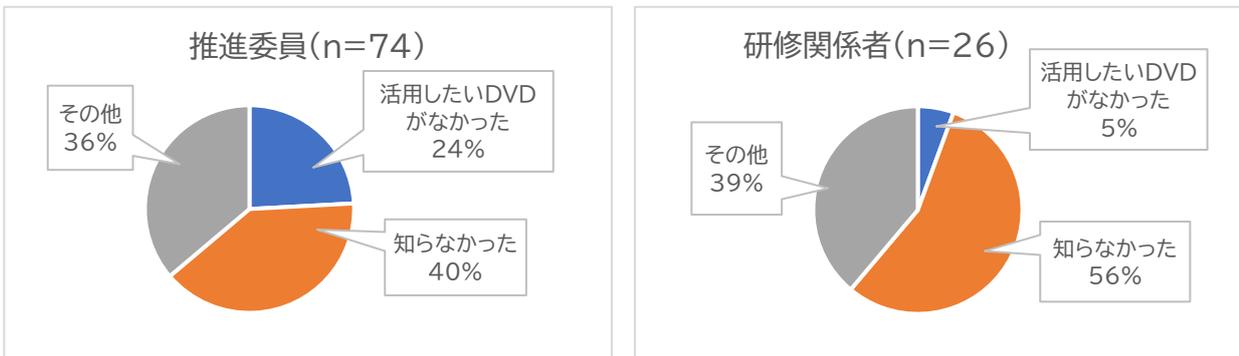
●医療・介護関係者への研修

<推進委員・研修関係者のみの設問>

貸出 DVD 研修を利用したことはありますか。



上記設問で「いいえ」と答えた方。これまでに活用した事がない理由を教えてください。



その他

- ・DVD の内容を把握できていない。
- ・機会がなかった。
- ・DVD を供覧する場がない。
- ・別の学習動画を利用している。
- ・活用の必要がない。

<結果・考察>

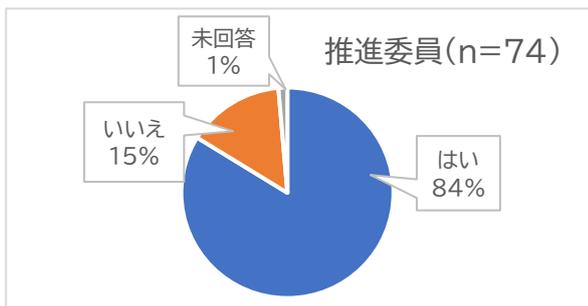
- ・推進委員、研修関係者いずれも8割前後が貸出 DVD 研修を活用したことがなかった。
- ・「知らなかった」と回答した方が 40～56%であった。貸出 DVD 研修は介護事業所を中心に案内を行っているが、介護事業所に所属されている方の回答も多く、認知度が低いことが分かった。

<今後に向けて>

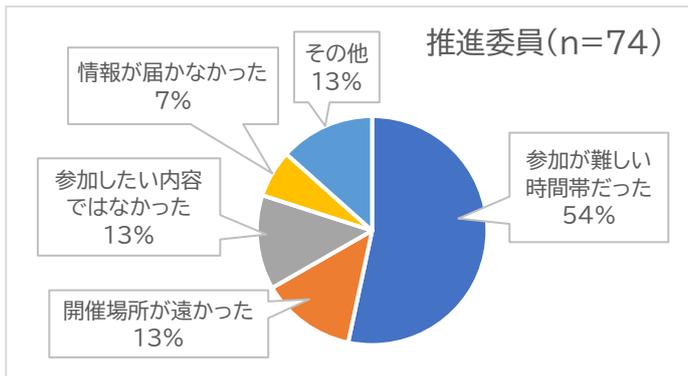
- ・介護事業所を中心とした案内の継続、強化。
- ・案内方法の検討、工夫を行う。

<推進委員のみの設問>

当センターが開催する医療・介護連携に関する研修会に参加したことはありますか。



上記設問で「いいえ」と答えた方。これまでに参加したことがない理由を教えてください。



その他
・定員オーバーで参加できなかった

<共通設問>

研修会のテーマ・内容に関するご提案やご要望、その他運営に関して改善点はありますか。(一部抜粋)

内容	在宅や施設で介護者、医療者ではなく、利用者からの講和(良かった事、悪かった事等) 「明日からすぐマネできる〇〇の実践方法」等があれば参加したいと思う人が増えるかなと思う。 総合事業の活用、身寄り無し問題、8050 問題 VR を使った体験版の看取りの演習 感染症発症時の医療機関への受け入れや、介護施設間での協力について 訪問診療から訪問看護との連携強化するにあたっての問題点や課題 また、看護から診療への連携強化するにあたっての課題等 歯科への関心が高まり、歯科への重要性が医科の先生方にも認識されつつ有るので、歯科の研修会も必要と考える。
方法	地域によっては資源、サービス量も異なるので同じ課題を抱えた地域同士で課題解決のためのグループワークが行え、それに対してアドバイス等がいただけると嬉しい。 話し合いから何か一緒にできるプロジェクトを考え出来たら実践的でいいのかなと思う Zoom 配信。 開催回数を増やすか、受け入れ定数を増やして欲しい。 制度のはざままで除外された方々の掘り起こしもできたらいいと思います。 各職能団体と連携した研修会などがあると良い ICF のプラスの視点から身寄りのない一人暮らしの高齢者が在宅で生活できるような KJ 法の研修はいかがでしょうか？
対象	新規の参加者を増やすことが課題だと感じた。各事業所の新職員などがより多く参加していただくとよりよい研修になるのではないかなと思う。 参加率が低い施設職員、小多機、等、参加率をあげると各サービスの質があがると思います。 関連している行政担当課からの参加が少ないと感じています
曜日・時間帯	日中にも開催してほしい。 みんなが参加しやすい夜の開催継続を希望。
その他	各種団体(介護福祉士会・社会福祉士会・ケアマネ協会・各自治体のホームページ・LINE 等)に今後、案内してみてもどうか？ 開催場所が遠い 多職種の方との交流ができる反面、広範囲の地域が対象だった為、日常業務でなかなか関わることが出来ない事が残念と思いました。

<結果・考察>

- ・研修会の参加について、大多数が参加したことがあると回答した。
- ・参加したことがない方の理由としては、「参加が難しい時間帯だった」が半数以上と一番多く、夜の開催のみのため参加できなかった方が複数いることが分かった。
- ・研修会のテーマ・内容等の意見・提案として、地域の実情や課題を踏まえた内容・方法に関する様々な意見等をはじめ、参加の少ない職種へのアプローチや、研修会の場所・規模などに関する意見も複数あった。次年度より実施するサテライト開催体制により、いただいた回答内容の一部にコミットできるのではないか。

<今後に向けて>

- ・現場のニーズに合った研修内容の検討を行う。
- ・行政担当者と協力し、サテライト開催体制の構築と充実化を図る。

●その他

在宅ゆい丸センターの活動についてご意見、ご提案等ありましたらご記入ください。

地域連携の事例の集積、情報共有でレベルアップが図れると良いですね。
行っている活動が効果を上げているか、アンケート調査以外に、定量的な効果判定を行う仕組み作りができるかと改善に繋げていけるかと思いました。
これからも医療及び介護の懸け橋になり広報支援をお願いします
医療ニーズの高い方・認知症症状が強い方・KPが希薄の方など、退院支援の際に難渋する事があります。施設の情報提供などやり取りができるといいなと思います。
事業所での研修参加率が上がるような工夫を次年度検討したいと思っています。 病院側の地域連携や退院支援、入院支援の看護職、外来部門のみなさんとの連携が図れるような研修がもっとあるといいかと思っています。
老健や有料老人ホームに入所・入居中の方のご家族向けに施設内での出張講座等があると参加しやすいかもしれません。
専門職である私たちも「人生会議」を学ぶべきと、事業所の研修でお願いしたいと前々から思っています。今度ご相談させてください。
急性期病院の看護師研修(クリニカルラダー別)を手伝ってほしいです
各市町村役所と連携した研修もあると助かります。
もっとゆい丸センターの活動が周知されることを願っています。
各地域の社協との連携も必要ではないか？
支援される側の認知症高齢者や医療的ケア(児)の当事者も推進協議会への参加を促してはどうか？
利用者本人又はご家族など当事者の話を聞く研修会もあるといいですね。

※特に意見や提案のあった回答を抽出。

<今後に向けて>

- ・当センター活動の周知継続。
- ・当センター活動を活用したいという意見が複数あり、何かしらの形で協力できるよう調整する。
- ・行政や他機関との連携強化に関する意見も複数あり、次年度の活動に反映可能か検討する。

★その他、推進委員、研修関係者から、「職場、団体などで実施されている活動」の情報提供を多くいただきました。見学等を通して地域へ活動の幅を広げられるよう、検討・相談を進めて参ります。